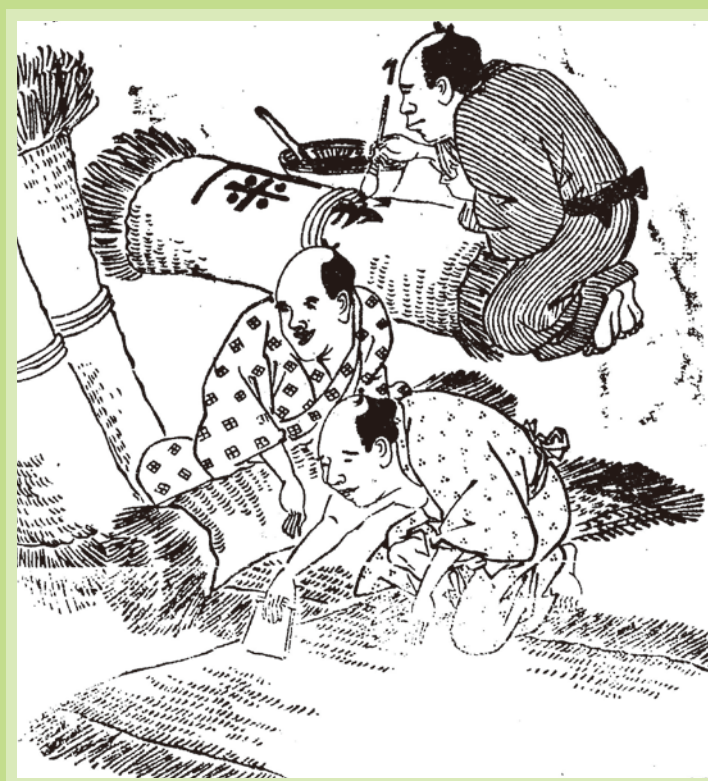


# 杵築七島いの歴史



『広益國産考』（織上たる苧を仕立てる図）

2015

七島い栽培復活継承協議会

## はじめに

この度「七島い栽培復活継承協議会」では「杵築七島いの歴史」を取りまとめることにしました。

七島い栽培復活継承協議会は昨年 11 月に発足し、かつては杵築市の重要な産業であった七島いの栽培を復活し、七島いと共にさかえた文化や伝統を継承していくことを目指しています。

「七島い」はイ草の一種で、畳表に織られます。昔から伝わる日本の家には「畳の部屋」が多く、杵築市の北台で公開している武家屋敷「大原邸」は殆どが畳部屋で厠（かわや）や中間部屋にも畳が敷かれています。

江戸時代杵築藩の支配地域は国東半島の東半分（今の杵築市を含む）を占め、稲作と七島いの栽培に力を入れていました。

特に七島いで織った畳表は丈夫で人気があり、販路は関西から関東・東北まで延び、藩の財政を豊かにしました。

稲作と七島いの栽培は、水田を使うため多量の水を必要とします。ところが国東半島はすり鉢を逆さに置いたような地形で、傾斜が大きく海岸線まで距離が短いという特徴があります。半島の中心の「<sup>ふたごやま</sup>両子山」から放射状に谷が形成され、谷ごとに川がありますが、川の水量は多くありません。

水田を開くために先人は多くのため池を作り、ため池をつなぎながら、水の確保をするシステムを作り上げてきました。

さて、一昨年 5 月石川県で国連食糧農業機関の「世界農業遺産国際会議」が開催され、世界農業遺産「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐地域の農林水産の循環」が認定されました。

杵築市では、約 350 年にわたって七島いが生産され、杵築藩や国東半島地域の財政を支え、生産者をはじめ、産業の基盤として、杵築市民の生活をも支えてきました。その七島いの歴史を取りまとめた本書が七島いによって作られた文化や伝統を次の世代へ継承する礎になれば幸いです。

平成 27 年 3 月 七島い栽培復活継承協議会 会長 西 豊之輔

# 目次

---

はじめに	P.1
------	-----

---

## 1 七島いとは

(1) 七島いの伝来	P.6
------------	-----

---

(2) 七島いの特性	P.8
------------	-----

---

(3) 豊後の名を冠した畳表	P.10
----------------	------

---

## 2 杵築七島いの歴史

(1) 杵築藩の栽培奨励と課税	P.14
-----------------	------

---

(2) 七島蕨の集積地—杵築—	P.16
-----------------	------

---

(3) 戦時統制と七島いの衰退	P.18
-----------------	------

---

## 3 七島いと人々の暮らし

(1) 農家と七島い	P.22
------------	------

---

(2) 青蕨問屋の仕事	P.24
-------------	------

---

(3) 行事の中の七島い	P.26
--------------	------

---

七島い栽培復活継承協議会	P.28
--------------	------

---

参考文献・あとがき	P.30
-----------	------

---



図で見る大分県七島い生産地域の推移（『豊後の七島い』より）



昭和 10 年の栽培地域



昭和 30 年の栽培地域



昭和 60 年の栽培地域



平成 27 年の栽培地域